

いちきくしきのっ子

いちき串木野市教育委員会 社会教育課
 〒899-2192
 いちき串木野市湊町1丁目1番地
 電話0996-21-5128



青松塾生を募集します!



小学3年～中学生を対象に、「青松塾^{せいしょうじゅく}」を開催いたします。
 土曜日の午後2時より串木野中央公民館で、鹿児島大学教育学部の学生さんと一緒に自学学習や体験活動を行います。
 昨年度は年間23回実施しました。自学学習では、勉強で分からないところを気軽に大学生から教えてもらったり、自学室から飛び出した体験活動では、普段体験のできない郷土料理や七宝焼をしたり、登山体験・歴史探検の屋外活動をしました。
 今年度も内容盛りだくさんで、みなさんの参加をお待ちしております。興味のある人は、学校から配られた申込用紙を学校へ出してください。

チャレンジ教室のお知らせ

学 校 名	実施予定日		27年度の内容
	1回目	2回目	
串木野小学校	4月23日	7月16日	・音で遊ぼう（笛作り） ・こまを作ろう ・空気で遊ぼう（風船ロケット） ・磁石で遊ぼう ・作って遊ぼう（紙ひこうき） ・飛ばして遊ぼう（たねの飛散） ・ガリガリトンボ ・万華鏡作り
照島小学校	4月23日	9月24日	
羽島小学校	5月7日	9月24日	
旭小学校	6月18日	10月22日	
生福小学校	5月21日	10月22日	
荒川小学校	5月7日	11月26日	
冠岳小学校	5月21日	11月26日	
市来小学校	6月18日	1月28日	
川上小学校	7月16日	1月28日	

今年度も上記の日程で、土曜日10時～12時に各校体育館等でチャレンジ教室を開催します。理科の先生が、不思議な実験や楽しい工作を子どもたちに指導します。

材料の準備の関係で、予定日の事前に参加者を募りますが、当日参加もできます。誰でも参加できますので、お友達を誘って遊びにきてください。

行きかえりの交通安全に気をつけましょう



子どもが夢をつかむ10の法則



新学期を迎え、新しい一歩を踏み出した我が子の姿に喜びを感じていることでしょう。

世界に羽ばたくプロテニスプレイヤー錦織圭、世界的なピアニスト辻井伸行について、その育てられ方を調べるとともに、過去の偉人たちが子ども時代にどのように育てられたかを調査した結果、「みんな、天才ではなかったが夢をつかんだ」という事実が浮かんできました。紹介された子育ての知恵や人生を変えたエピソードを10の法則にまとめていたので、紹介します。

1 「子どもは厳しく叱ること」～子どもは叱られたことで人を思いやる心が育つ～

最近の研究で分かったことは「体の痛み」を感じる場所と「心の痛み」を感じる場所は脳の同じ場所、前帯状皮質だそうです。そして何とそこでもう一つ感じるものは「他人の痛み」。よって、前帯状皮質が叱られることで痛みを感じれば「他人の痛み」にも敏感になり、人を思いやる心、社会協調性を育てることになるということです。

2 「夢を言葉にすること」～多くの人に夢を具体的に話すことで現実性を増す～

夢。つまり将来のビジョンを思い描くことができる動物は人間だけだと言われています。はるか先まで考えられる人間の脳は、夢を持つことで、それを達成させるまでの計画を立て、そのために何をすべきなのか考えるようになります。夢を持つということは、本来の意味で頭をよくすることに繋がっているということです。

3 「子どもを思いっきり誉めること」～誉められることでやる気・根気は大きく増す～

誉められると脳内ではドーパミンという「やる気ホルモン」神経伝達物質が分泌され、前頭前野に影響を与えます。このドーパミンによって脳は達成感を感じ、より高い目標を設定し、やる気がでるからその目標を達成し、また誉められる・・・そんな成功回路や手順が脳に刻まれるそうです。

4 「好きなことを1万時間やり続けること」

これは芸術・スポーツなど、どんな分野でも、好きなことを毎日続け、それが1万時間を越えるると一流になれるという理論であり、この理論において一番重要なのは、「自分が本当に好きなこと」をやること。単純計算で毎日3時間やって、およそ9年。これくらい徹底してやれば必ず自分のものになってくるはずです。

5 「人に会わせること」～多くの人に会い、視野を広げると夢を見つけられる～

いろいろな人のいろいろな考え方や立ち居振る舞いを見聞させることによって、必ず子どもたちの生き様に影響を与えることができるはずです。会う人を選ばず、むしろ自分にとって苦手と感じる人の方が後々にはためになっていることを再確認したいものです。

6 「どんどん失敗させること」～失敗を反省し、そこから学ぶことで夢に近付ける～

成功体験は時として子どものモチベーションを高めますが、往々にしてそれを過信し失敗する場面もあります。その機会を自分のために活用できることがとても大切であると考えます。

7 「子どもが夢中になることはやらせてみること」

～夢中になることが才能を伸ばし、自分に自信がもてるようになる～

とことん夢中になってやると次第に飽きたり、自分にとり有益かどうか考える機会も生まれてきます。才能は与えられるものではなく、自ら獲得するものであることを認識させたいものです。

8 「過保護・過干渉は大いに結構である。放任主義はやめること」

～親が手をかければかけるほど、子どもの脳は発達する～

子どもは、親との関係が密でないと伸ばすべき能力が伸びません。以前は「過干渉」より「放任主義」の方が子育てにはいいとされた時期もありましたが、現在はそれは間違いであったとされています。子どもとの触れあい大切なものは「時間」より「密度」で、肌と肌で密接し、密度の高い触れあいをすれば子どもの脳が発達して頭が良くなることが実証されています。

9 「とことん親バカになること」～親バカにならなければ、子どもの才能は見つけれない～

子どものために親自ら犠牲になったり、体を張るのは当然です。バカになって子どもに尽くす姿勢とそれを認められる子どもとの関係が最も大切だと思っています。

10 「自分の夢の素晴らしさを信じ続けること」

夢を実現するために絶対に必要なのは、自分の夢の素晴らしさを信じきり、夢を持ち続けることに他なりません。なぜなら、その夢の主人公は他ならぬ子どもたち自身であるからです。